

【単元名】 自然災害に対する備えを調べて文章に書き表し、理由や具体例とともに自分の意見を家族に伝えよう！

【教材名】 「もしものときにそなえよう」（光村図書）他、関連図書

【単元目標】

- ・ 自然災害への備えについて自分の考えを分かりやすく伝えるために、さまざまな文献を読んで災害に対する知識を増やす。
- ・ 家族に向けて、自然災害への備えについて自分の考えが伝わるように、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。
- ・ 自分の家族に向けて、自然災害への備えにおける自分の考えを伝えるように、調べて分かったことをまとめ、友達との協働的な学びをしたり、書き表し方を工夫したりしながら文章を書こうとしている。

【指導事項】

- ◎ 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。（知(2)ア）
 - 比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知(2)イ）
 - ◎ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。（思B(1)ウ）
 - 相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。（思B(1)ア）
- 【言語活動】 調べて考えたことを文章に書く場面。

【評価規準】

<知識・技能>

考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）

比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ）

<思考・判断・表現>

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）

相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）

<主体的に学習に取り組む態度>

自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、積極的に調べて考えたことを文章に書こうとしている。

【単元計画】（全11時間） 【意見文】

第1時 単元計画を立てて、学習の見通しをもつ。

第2時 調べる自然災害を決める。その自然災害や備えについて、知識を増やす。

第3～4時 自然災害の備えで大切だと思うこと（自分の考え）を決める。自分の考えに合う理由や具体例をカードに書き表す。

第5時 自分の意見を軸として、調べたカードを「理由」や「具体例・引用」に分類・整理する。

第6時 「はじめ」「中」「おわり」をもとに、文章の組み立てを考える。

第7～8時 自分の考えと、その理由や例が伝わる文章を書く。（本時）

第9時 文章の組み立てについて友達とアドバイスをし合い、文章を整える。

第10時 日本語の使い方について友達とアドバイスをし合い、文章を整える。

第11時 単元をふりかえり、身についた力を確認する。（作った意見文を家族に紹介する）

【本時目標】 自分の考えとその理由や具体例との関係を明確にし、書き表し方を工夫しながら文章を書く。

学習活動

◆導入◆【課題の設定】

- 本時のめあてを確認する。
- ロイロノートで自分のめあてを設定する。

◆展開1◆【情報の収集」「整理・分析」

- 学習の流れに沿って活動に取り組む。

- 自然災害への備えについて、思考ツールや文章の型に沿って組み立てた「自分の意見」「その理由」「引用・具体例」をもとに、ロイロノートで文章を書く。

※必要に応じて、同じ種類の自然災害を調べてきた友達と協働し、相談しながら文章を書き進める。

◆終末◆「まとめ・表現」

1. ロイロノートを用いて、振り返りを行う。
2. 次回の活動の確認をする。

指導の手立て 【★評価】

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- 単元目標を意識した個々のめあての設定ができるように、学習内容の部分にめあてを立てる視点を書く。
- 個々の学びの現状把握が子ども自身できるように、ワークシート等に教師のコメントを書く。

【「協働的な学び」を目指すための手立て】

- 質問しなくなったときにすぐ質問できるように、同じ自然災害を選んだ人同士で近くに集まり、グループを組んで意見を交流できる場を設定する。
- 学習サイクルのどの段階にあるか確かめられるように、黒板に掲示をする。

本学級は、児童の多様な実態に対応するため、ワークシートや目指す文の形などの教材を複数のレベルで準備し、支援の基本方針とする。

<全体への指導・支援>

文章の手本について「スーパー防災マスター」「防災マスター」の2種類を用意し、無理なく目指せるレベルの文章を選択する。

「自分の考え」明確 「理由・具体例」明確

自分の考えや、その理由・具体例が明確で、その内容も一貫している児童には、「スーパー防災マスター」レベルの文章の手本を提示し、その手本を目指して文章を書き進める。

「自分の考え」と「理由・具体例」が合っていない

自分の考えとその理由・具体例の内容が合っていない児童には、組み立てた時のカードを見て確認する。

「自分の考え」明確 「理由・具体例」不明確

自分の考えは明確だが、その理由や具体例が明確になっていない児童には、文献と一緒に読み返したり、同じ種類の自然災害への備えを調べている友達との協働を促したりする。

文章の読み書きが難しい児童

文章を自分で書き進められない児童には、教師の問いかけに答えながら児童の表現したいことを汲み取り、適切な言葉を児童に伝える。

文章の組み立ての理解が難しい児童

「自分の意見とその理由や具体例」という文章の組み立ての理解が難しい児童には「私は、〇〇が大切だと考える。」「なぜなら、～だからだ。」「例えば、～。」と書かれたロイロ上のカードを使って書く。

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

ロイロノートで、最初に立てた自分のめあてに対する振り返りをする。自身での振り返りが難しい児童には、教師が声をかけて、今日できたことを価値付けする。

★自然災害への備えで大切なことを、それを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(思B(1)ウ)【ワークシート】